

福島第一原子力発電所の状況

平成26年10月10日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (10/10 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.0 m ³ /h	27.8 °C	3.4 kPa g	A系： 0.04	vol%
		給水系：約2.4 m ³ /h			B系： 0.03	vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.5 m ³ /h	34.8 °C	6.88 kPa g	A系： 0.08	Vol%
		給水系：約1.9 m ³ /h			B系： 0.07	Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.5 m ³ /h	33.6 °C	0.20 kPa g	A系： 0.08	Vol%
		給水系：約1.9 m ³ /h			B系： 0.04	Vol%

<2. 使用済燃料プールの状況> (10/10 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	23.5 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	21.7 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	20.6 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	20.4 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

【4号機】H26/10/10 14:39 使用済燃料プール代替冷却系について、循環冷却設備の電源切替を行うため、停止(約6時間予定)。冷却停止時の使用済燃料プール水温度は20.7°C。冷却停止時間における使用済燃料プール水温度上昇率は0.261°C/hであり、停止中の使用済燃料プール水温上昇は最大で約2°Cと評価されることから、運転上の制限値65°Cに対して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上問題はない。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元	→	移送先	移送状況
1号機	1号機 タービン建屋	→	1号機廃棄物処理建屋	10/9 9:26~18:16 移送実施
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	10/2 11:07~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (10/10 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

・H26/8/20~ 今後、設置が計画されている高性能多核種除去設備の除去性能及び吸着材の交換周期等を検証するため、検証試験装置を用いて、実液通水による検証試験を実施。試験期間は3ヶ月程度を予定。

<5. その他>

・H26/1/29~ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置す

るための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。

4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。

7/28～ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。

8/12～ ドライアイスを追加で投入開始。

・H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。

6/2～ 凍土遮水壁工事を開始。

10/3～ 凍土遮水壁造成工事における凍結管設置に伴い、埋設物(トレンチ等)を貫通させて凍結管を設置する箇所を対象に、事前の溜まり水調査を開始。

・H26/10/10 測量船を用いた深浅測量(水深測量)において、測量船を1～4号機取水路開渠内に移動することから、1～4号機取水口付近に設置したシルトフェンスを開閉。

・9:00(シルトフェンス開)～9:12(シルトフェンス閉)

・10:40(シルトフェンス開)～10:50(シルトフェンス閉)

・H26/10/10 9:00頃 雑固体廃棄物焼却設備建設現場において、300tクローラクレーンより制御油が漏れていることを協力企業作業員が発見し、11:50に緊急時対策本部へ連絡。漏えい発見後、クローラクレーンのエンジンを停止したことにより、油漏れは停止。油の漏えい範囲は、地面に設置した鉄板上約1m×約1mであり、吸着材および中和剤にて処理を実施。12:00に双葉消防へ連絡。同日、15:56に双葉消防より「危険物の漏えい事象」と判断された。

・H26/10/10 残留熱除去系原子炉停止時冷却モード(以下「SHC」という)(B系)にて原子炉水を冷却中であるが、480Vパワーセンター5D(P/C5D)の点検に伴う、480V残留熱除去系モーターコントロールセンタ(RHR MCC)の電源切替作業を行うため、10:02にSHC(B系)を停止。なお、冷却停止時の原子炉水温度は31.1℃であり、原子炉水温度上昇率評価値は0.4℃/hで、停止中の原子炉水温度上昇は約2℃と評価。その後、作業が終了したことから、12:19にSHC(B系)を起動。運転状態に異常はない。また、原子炉水温度31.6℃まで上昇したが、運転上の制限値100℃に対して余裕があり、原子炉水温度の管理上問題はない。

【地下水バイパス揚水井の状況】

・地下水バイパス揚水井 No.1～12のサンプリングを継続実施中。

・1～4号機原子炉建屋等への地下水流入抑制対策として設置した地下水バイパス設備について、地下水バイパス一時貯留タンクグループ3の当社および第三者機関による分析結果[採取日9/29]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認したことから、10/8 10:11から海洋への排水を実施。同日10:14漏えい等の異常がないことを確認。同日16:25排水を停止。排水停止状態に異常がないことを確認。なお、排水量は1,557m³。同日、この際の南放水口付近の海水についてサンプリングを実施し、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

・H26/10/8に採取したE-9の地下水の全ベータ値に上昇があったが、トリチウム分析結果に上昇は確認されていない。その他の分析結果については前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

・H26/10/9に採取した地下水観測孔 No.1-6の地下水の分析値について以下の通り変動がみられた。

<今回(H26/10/9)採取分>

セシウム 134 17,000Bq/L(過去最大値)

セシウム 137 51,000Bq/L(過去最大値)

マンガン 54 290Bq/L

コバルト 60 2,100Bq/L(過去最大値)

全ベータ 2,100,000 Bq/L(過去最大値)

<前回(H26/10/2)採取分>

セシウム 134 10,000Bq/L

セシウム 137 30,000Bq/L

マンガン 54 97Bq/L

コバルト60 750Bq/L

全ベータ 1,100,000 Bq/L

今回の上昇については、台風の大雨による影響と考えられる。なお、H26/10/9 に採取した海水の分析結果に大きな変動がないことから、海への影響はないものと考えている。今後も監視を継続していく。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以 上